

JBICの平和構築支援への取り組み

平成18年7月26日
国際協力銀行 開発金融研究所
福田 幸正(主任研究員)
工藤 正樹(専門調査員)

1

発表の骨子

(JBICと円借款)

1. JBICとは
2. 円借款とは
3. 円借款の特徴
4. JBICの平和構築支援

(ODAの中の円借款)

5. 名実ともに「継ぎ目のない支援」へ
6. 日本の援助の強み
7. ODAの試金石としての平和構築支援

2

1. JBICとは

- 国際協力銀行
(Japan Bank for International Cooperation)
- 全額政府出資の銀行
- 開発途上国・地域の経済・社会開発、経済安定に寄与するための貸付等(海外経済協力業務)

3

2. 円借款とは

- 円資金貸付け(長期・低利)
対象: 経済社会基盤整備(道路、橋、電力、灌漑、上下水道)、
環境保全事業(公害防止、植林)、農村・地方開発事業など
- 開発途上国の自立を促す有償資金協力
(日本のODAの一形態)
- JBICが実施

4

3. 円借款の特徴(1)

- 公的開発資金貸付(長期・低利・比較的規模大)
最長: 40年、最低金利: 0.01、一件当たり: 数十～数百億円
- 借り入れ国側に返済義務と事業実施責任
- 「円借款受け入れ能力」のある国に提供
(返済能力、債務管理能力、財政管理能力、事業実施能力、事業運営能力、組織運営能力、問題解決能力、評価能力など)
経済自立を目指した主権国家としての必須能力
- (一定レベルの)総合的能力を求め、また培うもの
真剣な事業遂行意識、コスト意識、自助努力(オーナーシップ)の精神も醸成

5

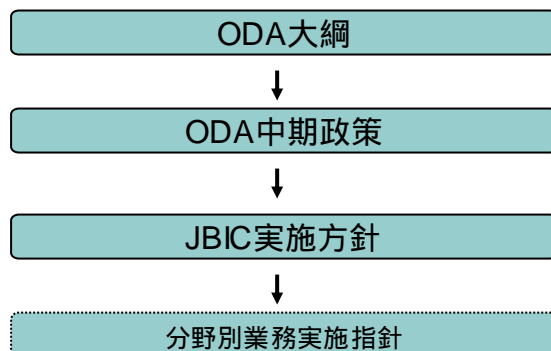
3. 円借款の特徴(2)

- 長期にわたる日常の実務関係を通じた政策対話・技術移転効果
- 規模が大きいこともあり、自ずと援助協調マクロ/セクター政策での位置づけ確認
- 援助依存から市場資金調達への橋渡し
- 長期におよぶ日本の真剣なengagementの証

6

4 . JBICの平和構築支援 (1)

- 政策枠組み:



7

4 . JBICの平和構築支援 (2)

- JBICの支援ツール:

円借款

調査によるソフト支援

JBICの人材派遣

- 支援実績: スリランカ、ミンダナオ、ボスニア・ヘルツェゴビナ、イラク等

8

4 . JBICの平和構築支援(3) スリランカの例

ポイント 正の援助効果()、負の援助効果()
有償(大規模)の特徴を活かす。

- 【略史】
- 1948年 独立。その後シンハラ政権により、シンハラ優位政策(シンハラ語の公用語化、仏教の保護など)
 - 1983年 タミル人虐殺事件
虐殺事件をきっかけとして、LTTEは北・東部地域の分離独立を要求し、約20年間にわたる内戦が勃発
 - 2002年 停戦合意(2月)
 - 2003年 ノルウェーの調停により政府とLTTEが停戦に合意
 - 2003年 復興開発に関する東京会議(6月)
国際社会は、今後4年間で総額約45億ドルの支援を表明
 - 2004年 スマトラ沖地震・津波(12月)
日本は、スリランカに100億円の借款支援(LTTE地域も含む)(*)

<民族構成>
シンハラ人(74%)
タミル人(18%)
ムスリム他(8%)

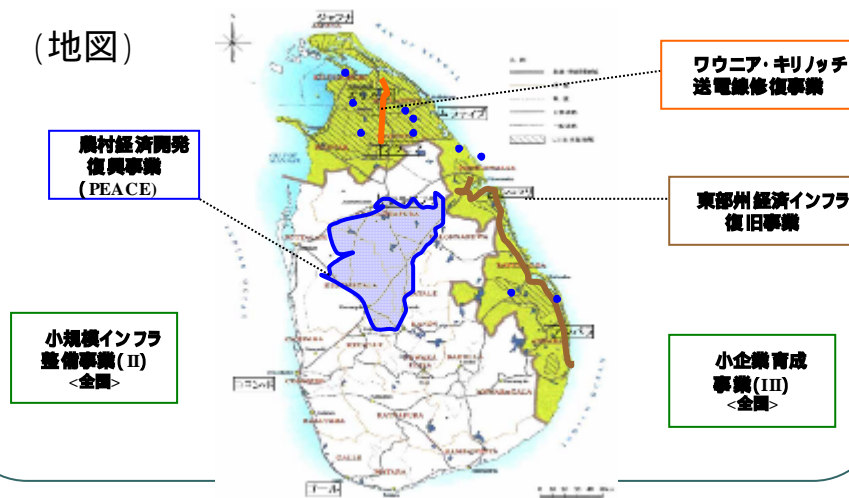
(*)「スリランカ津波被災地域復興事業」(2005年6月に借款協定を調印)

出所:開発金融研究所(2003)など

9

4 . JBICの平和構築支援(4) スリランカの例

(地図)



10

4 . JBICの平和構築支援 (5) スリランカの例

SADEP調査 机上 / フィールド調査 (要因・影響分析)
ワークショップの開催 (情報の共有)

社会経済的差別・排除の是正
民族・文化の多様性の保証
地域格差の是正
健全な経済発展

【対スリランカ支援 (JBIC の取り組み)】

- 2002 年 4 月 SADEP 準備調査 (7 月から本格調査開始)
- 12 月 SADEP ワークショップ (於 : コロンボ)
- 2003 年 1 月 **農村経済開発復興事業 (約 60 億円)**
- 6 月 「スリランカ復興開発に関する東京会議」 (於 : 東京)
- 2004 年 12 月 小規模インフラ整備事業 (II) (約 117 億円) / 小企業育成事業 (III) (約 96 億円)
- 2005 年 6 月 |フウニア・キリノッチ送電線修復事業 (約 12 億円)

多様なステークホルダー間で
情報や知識の共有

11

4 . JBICの平和構築支援 (6) スリランカの例

● 中心課題

スリランカ政府 : 統一主権国家としてのスリランカの存続。

LTEE : タミル民族の悲願に関する公正な解決。

日本 : 上記 と の調和のためにODAを活用。

● 構造要因 (民族・宗教・経済格差)

● 配慮事項

支援の均霑 配当

柔軟で創造的修正の可能なアプローチ

12

4 . JBICの平和構築支援(7) スリランカの例

- スリランカに対する円借款案件(平和構築関係)

案件名(代表案件のみ)	契約年度	借款金額(百万円)	金利(%)	返済 / 据置期間	調達条件
農村経済開発復興事業	H15	6010	2.2	40/10	一般 アンタイド
小規模インフラ整備事業()	H16	11,776	0.75 ¹⁾	40/10	一般 アンタイド
小企業育成事業()	H16	9,619	0.75 ²⁾	40/10	一般 アンタイド
ワウニア・キリノッチ送電線修復事業	H17	1,278	0.75 ¹⁾	40/10	一般 アンタイド
東部州経済インフラ復興事業	H17	4,460	0.75 ¹⁾	40/10	一般 アンタイド

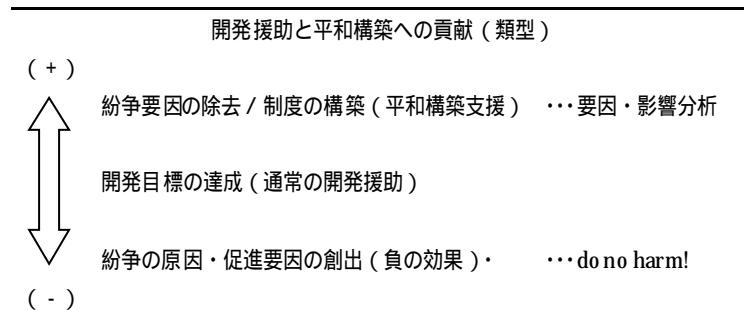
注: 1) 優先条件「平和の構築支援」; 2) 優先条件「中小企業」および「平和の構築支援」

出所: JBIC ウェブ・サイト(2006 年 3 月現在)

13

4 . JBICの平和構築支援(8) スリランカの例

- 正の援助効果の最大化 / 負の援助効果の最小化
- 支援ツールの特徴を活かす。



14

5. 名実ともに「継ぎ目のない支援」へ

- 「継ぎ目のない支援」の「節目」

= 紛争経験国が借款を受け入れて事業を行えるところまで到達した時点

無償、技協、円借款の一層の有機的
位置づけが求められる

15

6. 日本の援助の強み

- 無償、技協、円借款など様々なツールを持ち、状況に応じてこれらを組み合わせて「継ぎ目のない支援」ができること

平和構築支援に有効

16

7. ODAの試金石としての平和構築支援

- 途上国問題の本質的部分が先鋭的に発現
- 平和構築への取り組みと経験の蓄積は援助全体の質向上に資するもの
- 援助の本質を真剣に考える機会を提供

17

ありがとうございました。

< 主要な参考文献 >

[和文]

- 国際協力銀行(2005)『海外経済協力業務実施方針(平和17年~19年度対象)』
[<http://www.ibic.go.jp/japanese/oec/policy/index.php>]
- 国際協力銀行開発金融研究所(2003)『紛争と開発:JBICの役割(スリランカの開発政策と復興支援)』JBICリサーチペーパー No.24*
- ホートン、ジョナサン(2002)『紛争後の経済復興と平和構築活動』JBICリサーチペーパー No.16-4.

[英文]

- Goodhand, Jonathan and Klem ,Bart with Fonseka, Dilukshi, Keethaponcalan, S.I., and Sardesai, Shonali (2005), *Aid, Conflict, and Peacebuilding in Sri Lanka 2000-2005*.

*JBICリサーチペーパーのURL [<http://www.ibic.go.jp/japanese/research/report/paper/index.php>]

18